

町の小さな俳人 ぞうの気持ちを詠んで 6千句以上の中で最高賞



←1句の創作を通して日本文化の理解や感性を養うことを目的に、世界の15歳以下を対象に行われている「世界こどもハイクコンテスト」。2月8日に市場小で表彰式が行われ、家族や先生、町長のほか多くの報道陣が注目する中、日本航空九州・山口地区の溝之上正充支配人から西田さんに賞状と記念品が手渡されました。コンテストは58の国・地域で開催されています。



俳句を詠む

4世代にわたり心を句に映す

市場小4年の西田咲笑さん(赤池)が、JAL財団主催の「世界こどもハイクコンテスト」の日本大会で大賞を受賞しました。コンテストは1990年から2年に1度開催され、今回15回目。「いきもの」をテーマに、日本からは前回より約1千句多い6千153句が寄せられ、咲笑さんの句は大賞10作品のうちの1つに選ばれました。

咲笑さんが俳句に興味を持ったのは、ご家族がきっかけ。母、祖母、曾祖父と、現在なんと4世代で俳句を嗜んでいるそうです。曾祖父の岩井喜則さんは「鬼童」の俳号で長年にわたり各地で指導を行い、広報ふくちでもお馴染みの「鬼童赤池俳句教室」を主宰。1年半前の10月、咲笑さんが初めて詠んだ句「本番でかつてうれし運動会」が選句され、広報紙や新聞紙の投句欄に掲載されました。



第15回世界こどもハイクコンテスト 日本大会 大賞受賞

西田 咲笑 さん(市場小4年)

動物園で柵から象が鼻を出している様子を見て、出たがっているように感じました。柵の中でずっと待っているの、象はきっと日が長く感じているだろうと思い、春の季語「日永」を選びました。

俳句の基本や楽しみ方 いろは

1 基本は簡単五・七・五に季語が入る「有季定型」

基本ルールはたった2つ。「五・七・五」の定型に「季語」を入れることです。音数で迷う拗音(ぎゃ)などは1音で数えます。対して促音(つまぎ)の「っ」や長音(のはず音)はそれだけで1音です。
【例】チョコ→2音 クッキー→4音

2 瞬間を切り取り 思い出に残す「吟行」

旅先で詠む俳句は、その時の情景を心にとともに思い出として残すことができます。また、普段から四季の移ろいなどに敏感になり、考えや視野が広がります。

3 言葉を見つめ 日本語の奥深さを知る

17音の制約の中で、どのような言葉を選ぼうと表現するか。おのずと言葉の世界を掘り下げる「こころ」がります。

「自分も小学生の頃に父の吟行(俳句)を詠むための外出」について行って句を詠んだ記憶があり、咲笑にもすすめてみました」と祖母の建部三由紀さん。以来、カレンダーの裏紙などで作った鬼童先生お手製のノートを持ち歩き、普段から俳句をしたためているそうです。その時々咲笑さんの思いが込められた17音の詩は1年半で100句を超えました。

咲笑さんの俳句について、母の真美さんは次のように話します。
「学校でのことや大好きな猫について詠んだ句などテーマはさまざま。季語の本から自分にも分かる言葉を探して句を作っているの、季節の植物や食べ物といった風物詩を自然と勉強できているようです。また、受賞した句は、家族で動物園に行った時に詠んだものですが、唯一、象だけが長い鼻を柵の外に出すことができるんですよ。そこに着眼し「象が」ではなく「象の鼻が」出たがっていると表現したところに、子どもならではの感性を感じてうれしく思っています。」
四季に恵まれた日本だからこそ、伝統文芸として定着してきた俳句。日本ならではの四季の移ろいや自然の美しさに心を寄せることができると、近年、その魅力が注目されています。



大賞に選ばれることは非常に難しく、名誉なこと。我々も大変うれしく思っています。これを一つのきっかけに、たくさん本を読み、よく遊び、感性を磨いていってください。

日本航空九州・山口地区
溝之上 正充 支配人



コンテスト優秀作品は、世界で読まれる本に和訳英訳付きの俳句として掲載されます。咲笑さんの句が掲載される第15巻は11月頃に出版された後は「ふくちのち」でも貸出予定。



世界で最も短い詩「俳句」の17音の中で自分の気持ちを表し、大賞を受賞したことは、福智の子どもたちにとっても励みになります。今後もさらに素晴らしい句を作ってください。

福智町
嶋野 勝 町長

詠むことで思考が高まる 日々と感性を豊かにする 俳句の魅力と奥深さ

県内俳句を導いた岩井鬼童先生

「俳句は見たままを詠んでも報告文にしなければならぬ。同じものを見ても、人それぞれ感じることは違う。自分の主観を少し入れることで、詩がぐっと面白くなる。」

今年で90歳、俳句歴62年の岩井鬼童先生。退職後、約30年にわたり田川、直方、宗像など県内6か所で句会を主宰し指導

してきました。「さまざまな人の作品に触れることが視野を広げる」と考え、20年前にそれぞれの句会の作品を束ね「鬼杉」を創刊。句会混合で、九州内のいたる所へマイクロバスを走らせ、吟行したといえます。高齢のため現在主宰する句会は自宅での「鬼杉赤池俳句教室」のみとなりましたが、その感性は磨き続けられています。鬼童先生の添削例を一部ご紹介します。



→2月17日の鬼杉赤池俳句教室では咲笑さんの妹・芽生さん(小1)も含め8人が参加し和やかに行われました。

言葉の意味を深く考え多くを語らず余韻を残す

雪解けて音聞こえけり水車小屋

動き出す

「鬼童先生添削」たとえば「雨」は降るものなので、俳句では「雨降る」とは言いません。同様に「音」もそれだけで聞こえる音だと分かるので「聞こえ」は不要でしょう。「音動き出す」とすると、何だろうか?と読む人の興味をそそります。最後に「水車小屋」がくることで、種明かしのよくな面白さが出ますね。



↑鬼童先生が作成・出版した句集の一部。当時の時代や人を映した貴重な資料として残っています。

言葉や語順の工夫でムダを削ぎ、主観を少し入れる

彩りの花屋をあふれ風光る

なる

「鬼童先生添削」この句であふれているのは「彩り」ですが「彩り」と「あふれ」の間に「花屋」が入っていることで、句が間伸びしてしまっています。語順を入れ替え「彩りのあふれる花屋」とすると、句が締まるでしょう。ただ状況説明だけになっているので、メリハリを効かせたり余韻を持たせる工夫が必要。



人生を豊かにする俳句

町内では岩井鬼童先生の「鬼杉赤池俳句教室」のほか、池田一步先生が指導する「方城句会」「赤池隣保館句会」、高齢者大学での俳句教室など、俳句に親しむ場所があります。

70年近く俳句に携わり、指導者として多くの人を見てきた池田一步先生は「俳句が頭と体を支え、長寿に結びつく」と言っ



↑方城、赤池で俳句を指導して25年になる池田一步先生(赤池)。出会いと感動を生み、心の支えとなる身近な俳句を広く伝え続けています。

ても過言では無い」と話します。また、俳句を詠んでいる人の誰もが「俳句が思考を高め、考えや視野が格段に広がる」と口をそろえます。人生を豊かにする俳句——句会が心のよりどころとして欠かせない存在になっている人も多いうようです。

俳句の楽しみは作るだけではない

俳句に関する本は多く、ふくちのちでも貸し出していますが、やはり独学では限界があります。仲間の句に刺激を受け、講評や添削を体験することも、俳句の面白みの一つではないでしょうか。まずは筆記用具とノート、歳時記を持って、町内の句会を見学してみませんか。

→季語が掲載された「歳時記」は図書館でも借りることが可能。電子辞書も便利です。

その数なんと五千以上 季語

1 季語の持つ本来の意味・情感を理解して用いる

俳句での季語は非常に重要で、単なる言葉として一句にひとつ入っていればよいというものではありません。季語を他の言葉に変えても通用する句は弱いです。

2 使われて生まれる季語時代によって変化

季語の数は5千を超えるといわれますが、時代の流れで使われなくなった季語もあります。逆に「花粉症」など新しい季語も生まれているので、季語を集めた本「歳時記」をチェックしましょう。

3 句を適切に伝えるため言葉を吟味し使い分け

同じ夏の雨でも「五月雨」「夕立」などの言葉があります。また季語でなくても「泣く」「鳴く」「哭く」など同じ音でも意味が異なるので、言葉を吟味しましょう。

人生の楽しみみの一つに 俳句を詠む

句会に参加する

※ぜひ見学にお越しください。

【方城句会】池田一步先生

日時 隔週火曜日(月2回)12時30分

場所 ほのぼの館

【赤池隣保館句会】池田一步先生

日時 毎週金曜日13時

場所 赤池隣保館

【鬼杉赤池俳句教室】岩井鬼童先生

日時 第1金曜日・第3土曜日13時

場所 岩井鬼童さん自宅(赤池)



→ほのぼの館で行われている方城句会。5~11月は高齢者大学の俳句教室にあわせ方城分館で開催。



←昨年までの金田公民館での俳句教室を、岩井鬼童さん宅で開催。詳細は広報係へお尋ねください。